

11月11日（木）共同記者会見

<司会>

第64回全国植樹祭会場決定に関する共同記者会見を開催する。

本日の記者会見の出席者や配席、会場の概要についてはお手元にお配りしております資料のとおり。

卓上を飾るのは、開催候補地である全国柿の種吹き飛ばし大会の町「南部町」で栽培された「富有柿」。「伯耆町」の特産品、「秋出荷パンジー」。本県秋出荷パンジーは京阪神市場において独壇場。また、「江府町」からはブナ林から湧き出る自然の恵み「奥大山の水」を頂戴している。その他、プランターや花瓶に納まりますのは、当県の秋を彩ります花々。

はじめに平井知事から開催県として会場の発表をさせて頂く。

<平井知事>

本日ここに、国土緑化推進機構の谷副理事長、梶谷専務、石井常務、箱石総務部長をお迎えいたしまして、先程まで精力的に協議をさせて頂いた。

私どもの提示した案にご同意を頂き、正式に開催地を公表させて頂きたいと思う。まず、両陛下による、お手植えお手まき等の行事が伝統的に行われている式典会場は、「とっとり花回廊」の入り口付近の駐車場の一角、1ヘクタール強を活用していこうということにさせて頂いた。

さらに「花回廊」サイドでの植樹会場は、南部町と伯耆町にまたがります30ヘクタール規模の森林で行うことにした。

併せ、同時に、「奥大山高原」江府町鏡ヶ成において、1ヘクタール程度の植樹会場を設営していこうということになった。

雨が降った場合など荒天、荒天の場合は、米子駅前の「米子コンベンションセンター」を会場とすることで一致した。

これから、国土緑化推進機構と一心同体となり、第64回全国植樹祭の成功を県民のみならずみなさまと共に創りあげていきたいというふうに思っている。

今日この会場には、南部町の富有柿、あるいは江府町の水、さらに伯耆町のパンジーが彩りを添えているわけであるが、自然豊かな鳥取県からはこのような様々な恵みがやって来る。しかし、このような恵みをもたらす大元を問いただせば山できちんと保水をし、あるいはCO₂を吸収して良好な地球環境を守り、さらに人々の生活の場、生業の場としての林業を支えるそういう森が必要になる。

私達としては、「心癒される森林づくり」をモットーとして、この全国植樹祭で、多くの全国のみなさまの共感を頂き、そして運動の推進へと、まい進をして参りたいというふうに考えている。

ぜひともみなさま方のご協力を賜りたく、なかんづく国土緑化推進機構の皆様にもご理解を賜りたくお願い申し上げ、私の方からの会場の決定を申し上げたいと思う。

どうもありがとうございました。

<司会>

続きまして、共催である社団法人国土緑化推進機構 谷副理事長様から発表を頂く。

<国土緑化推進機構 谷副理事長>

平成25年春に行われる、第64回全国植樹祭につきましては平井知事はじめ県当局のご尽力に対しまして、まずもって改めて感謝申し上げます。

会場については、ただいま知事が発表になったとおり、式典会場は「とっとり花回廊」、植樹会場は「とっとり花回廊内の山林」及び「国立公園奥大山高原」とする事に異議なく決定したところ。

昨日は県の案内により、現地調査をさせて頂き、先程、知事をはじめ、協議いたしまして異議なく決定したところ。

これからは、国土緑化推進機構としてもこれまで同様、鳥取県と共に第64回全国植樹祭の成功に向けて全力を挙げて取り組んで参りたい。

今後とも、みなさんのご協力ご支援を宜しくお願い申し上げます次第。

簡単であるが以上。

以下質疑応答

<報道>

知事は、どのような植樹祭にしていきたいと思っているのか、お答え下さい。

<知事>

鳥取は森林県でもある。その森の恵みの豊かさを県民のみなさまと一緒に盛上げていく、そういう大会にさせて頂きたいと思う。

この全国植樹祭には、県内外各地から関係者をはじめ多くの方々が集まる。そういう方々に鳥取で取り組んでいる「共生の森」だとか、民間の方が参画しながら森林環境保全税を活用してボランティア活動をされていたりとか、そういう様々な形での森を守る運動が展開されて行く事を見て頂きたいと思う。

そして、これと併催して「食のみやこ とっとりフェスタ」をいずれ考えていこうというふうに思っており、鳥取の持つ食の都としての魅力や観光地の魅力も訪れる全国のみなさまに見て頂く機会といたしたいと思う。

私たちの生活やこの地球自体、森とは切っても切れないもの。

その当たり前のことが当たり前でなくなりかけている現代社会において、鳥取発の全国植樹祭によって、情報発信をさせて頂きたいという風に考えている。

<報道>

谷副理事長にお聞きしたいのですが、昨日、花回廊を視察された際の感想などあればお聞かせいただきたいと思う。

<国土緑化推進機構 谷副理事長>

会場としては、ある程度整備が行き届いていて、常々、経費節減で、あまりお金がかからないで植樹祭が開催できるようにという方針で臨んでいるので、鳥取県の場合はそういう方向にも叶ったものという風に考えている。また、植栽会場候補地を2ヶ所、見させて頂いたが、「ミズナラの林の復活」とか「里山の復活」等の明瞭な目的も持った植樹活動ですので、そういう面においても大変いいものと思っている。

<報道>

とっとり花回廊の選定理由をお伺いしたい。経済面とか警備上を踏まえてのことと思うが、それ以外に選ばれた理由があるのか。

<知事>

いろいろな会場候補地があり、その中でコストパフォーマンスや、どのような設営の経費がかかるか、さらに賓客がお見えになるので警備上の安全確保の問題や、公道の接続状況も評価対象にさせて頂いた。「とっとり花回廊」を主たる会場とするのは、式典会場から望む大山をはじめとした鳥取県の自然の雄大さが見て取れる所。そういう意味でお見えになる全国のお客様にも印象に残る植樹祭が出来るのではないかと考えて「とっとり花回廊」を選定させて頂いた。その他に、式典前日、倉吉では「全国林業後継者大会」に参加した上で式典参加される方々の、植樹会場を考えると、江府町にも、もう1ヶ所植樹会場を設けさせて頂くということになった。花回廊の植樹会場では、鳥取県に失われつつあるような里山を再生するとか、江府町の会場では、もともと繁っていたミズナラが失われたものを復活させていくなどの取組を考え、こういういろいろな要素を総合的に勘案した上で、これら三つの会場を主たる会場とさせて頂いたところ。

<報道>

全国植樹祭の開催前、23年には、豊かな海づくり大会が開催される。それとの関連、連続性について伺いたい。

<知事>

全国豊かな海づくり大会が、いよいよ明年のこの秋に迫ってきた。今県内で環境活動を推進しよう、また、放流をしようという白うさぎ大使の任命を進めている。すでに県下で4600人の方が白うさぎ大使になられた。こうした環境を守っていこうという取組は植樹祭にも繋がって行くものだ。私達として、せっかく海づくり大会があり、植樹祭がその2年後に訪れるものであるから、この機会に県内における環境イニシアチブというべき環境先進県運動を展開して参りたいと考えている。

終了。